上川井だより

令和３年９月１日
横浜市立上川井小学校
校長　　山崎　真紀子

９月号

みえないもの

　ヒグラシのなく声が夏の終わりをそっと告げています。この夏は、新型コロナウイルスの感染拡大と熊本県・広島県を中心とした豪雨災害が重なりました。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。
　また、ウイルスに感染され、療養中の皆様の一日も早い回復をお祈りいたします。

　夏休みと休業期間が終わり、子どもたちの笑顔とともに学校が再開できたことを何よりうれしく思います。子どもたちも身近な場所で楽しみを見つけながら過ごしていたようです。夏休み中は、PTA の餌やりサポーターの方々が世話してくださったおかげで、ウサギのゴマも元気に夏を過ごすことができ、大変感謝しております。ご協力ありがとうございました。

　子どもたちの昇降口の横に、５年生が育てているバケツ稲があります。夏休みの間、当番が水やりをし、大切にしていました。その稲穂がよく実り、頭を垂れています。触ってみると硬さもあり、実がしっかりと育っていることがうかがえます。１粒の小さなもみからぐんぐんと生長し、たくさんの実をつける植物の生命力には、いつも感心させられます。学校に用事があってきた子が、「わあ、実っている。」「食べられるかな。」と嬉しそうに見ていました。もう少し実が熟してきたら収穫して、はざかけし、脱穀する予定です。稲作の歴史に触れたり、食べる以外の米やぬか、わらの利用について調べたり、今後の学習の発展が楽しみです。
　夏休み前も、２年生が育てている野菜の収穫を毎日楽しみに世話をしていました。
「ねえ、校長先生、昨日はこんなに大きなキュウリを取ったんだよ。」「僕は、ミニトマトをいっぱいとったよ。」「このオクラを見て。きっと、もうすぐ食べられるよ。」育てている野菜や植物の話をする子どもたちの表情は、いつもきらきらとしています。命に触れる学習の大切さを感じる瞬間です。こうした学習活動を通して、「いのち」という大切だけれど見えないものを感じてほしいと思っています。

　今、世界中の人が命を守るために、新型コロナウイルスという見えない敵とたたかい、大きな不安の中で生活しています。不安を煽るつもりはありませんが、感染者は、日毎に増え、誰もがいつどこで感染してしまうかわからない状態です。今後、身近に陽性になった人が出ても、見えない不安に突き動かされて差別感情がわかないように、今日、全校で考える時間をもちました。これも、「いのち」を考える学習です。見えないものに気持ちを向け、理解しあい、助け合える姿勢を育てていきたいと思います。